

小学校英語教科化記念全国シンポジウム〈盛岡〉

小学校外国語教育に係る岩手県の取組

岩手県教育委員会事務局学校教育課

主任指導主事 佐々木 淳 一

グローバル化に対応した新たな英語教育に向けて

平成29年度

岩手県学校教育指導指針「外国語活動」

- 1 外国語活動の目標をふまえ、
指導と評価の充実に努めること**
- 2 外国語活動に関する校内研修の充実
を図ること**
- 3 小中連携（及び同一中学校区内の小小連携）
を図ること**

本年度の重点

1 外国語を通じて、「コミュニケーションを図ることの楽しさを知る」ことができるように指導を工夫すること

- 児童が思わず聞きたくなる、何とかして伝えたいくなるような授業を仕組むこと（コミュニケーションの目的・場面設定、相手意識、聞く・話す必然性、等の工夫）
- 単元と単元のつながりや他教科等との関連を意識すること

2 外国語活動の趣旨、目標及び内容等について、改めて全教員が共通理解を図ること

- 指導と評価が一致するよう、本時の目標を指導者が意識すること
- 児童の言葉に対する気付きや相手との関わりを通して得た気付きを見取り、適切に価値付けて児童に返すこと

3 校内研修の充実を図ること

- 外国語中核教員を中心に、授業づくりや英語運用にかかる研修に校内体制で取り組み、新学習指導要領の実施に向けた準備を進めること
- 中学校（並びに同一中学校区内の小学校）と一層の連携を図ること

小学校外国語活動の成果

- 英語に対する抵抗感が少ない
- 英語を聞く力が高まっている
- 英語で活動を行うことになれている
- 定型表現や語彙がしみこんでいる
- コミュニケーションをあきらめない
- 学級経営に役立っている

小学校外国語教育を推進する岩手県の取組

● 先行研究：外国語教育強化地域拠点事業

＜紫波町を拠点地域に指定：H26－29年度の4年間＞

- ・文部科学省の委託を受けて実施する、次期指導要領改訂に向けた研究開発
- ・紫波第一中学区の3小学校（日詰小・赤石小・古館小）及び紫波総合高校を指定
- ・中学年の外国語活動、高学年外国語の教科化、中・高における目標及び内容の高度化について実践
- ・小学校における短時間学習の実施、高学年のパフォーマンス評価の工夫等、研究成果を県内に普及

● 教員研修の充実・拡充：小学校外国語中核教員研修会

- ・英語教育推進リーダーの育成・活用（国事業）
- ・小学校外国語中核教員研修会の実施
（H27-28 外国語活動の校内研修の強化、H29-30 教科化に向けた準備）
- ・中学校においては、年1回（3学期に）「中学校英語研修会」を継続実施

● 各地域の拠点・モデル校づくり：英語が好きになる学校づくり事業

- ・学校組織体制で取り組む英語力向上のモデル校指定
（H28-30 各教育事務所において、小1校、中1校を指定）
- ・年1回、実践発表と授業公開を兼ねた研究会を実施

● 教員個々の資質・能力の向上：大学と連携した認定講習の実施

- ・2～3年間かけて小学校外国語教育講座を含む中学校英語教員二種免許取得（岩手大学）
- ・放送大学「小学校外国語教育教授基礎論」の周知

小学校外国語教育を推進する岩手県の取組

◆外国語教育強化地域拠点事業

- 「これからの外国語教育を考える会 in Shiwa」
- 1 日 時 平成29年11月8日（水）
- 2 会 場 紫波町立紫波第一中学校
- 3 趣 旨 4年間の先行研究の成果普及
- 4 内 容
 - ①短時間学習（赤石小5年）
 - ②小学校外国語授業（日詰小6年）
 - ③パフォーマンス評価（古館小5年）
 - ④中学校外国語授業（紫波一中1年）
 - ⑤研究協議会
 - ⑥講演会

外国語の短時間学習を取り入れた指導計画



時間割



5年1組

「外国語教育強化地域拠点事業（岩手県）」で高学年外国語科の短時間学習（モジュール）等の研究に取り組んでいる紫波町内の小学校の時間割です。

45分の授業×1コマ
15分のモジュール×3回
(火・木・金)

火曜日・木曜日が5時間授業

時程	月	火	水	木	金
8:15~8:30	朝学習（算）	英語	全校朝会 児童朝会 朝読書	朝学習（国）	英語
8:30~8:40	朝の会 1日の始まり元気よくあいさつ さあ がんばろう！				
1時間目 8:40~9:25	国語	理科	国語	国語	音楽
2時間目 9:30~10:15	道徳	国語	わくわく	社会	国語
10:15~10:30	業間 給食まであと2時間 ちょっと休憩リフレッシュ				
3時間目 10:35~11:20	理科	算数	算数	理科	体育 (外)
4時間目 11:25~12:10	算数	社会	体育	算数	算数
12:10~12:55	給食 さあ もりもり食べよう！				
12:55~13:20	昼休み 元気いっぱい外で遊ぼう！				
13:25~13:45	掃除 ぴかぴかきれいにしよう！				
5時間目 13:50~14:35	図工	学活	家庭	13:25 英語	英語
				ふるふる タイム	
6時間目 14:40~15:25	体育 図工	帰りの会	家庭 音楽	14:10 帰りの会	社会
		委員会 クラブ		下校 14:40	
下校 16:00	帰りの会		帰りの会		帰りの会

<学習用具の約束>

校種・学年		小 学 校 第 5 学 年									
最終目的		コミュニケーション能力を身に付けた次代を担う人材の育成									
小中高共通目標		児童・生徒に、英語活動・英語学習を通じて、言語や文化に対する理解を深めさせ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力を養う									
指導目標		英語学習を通じて、言語や文化について、体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、身近で簡単なことについて、英語の基本的な表現に関わって、聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う									
週時数		週2時間（45分授業×1・モジュール15分×3回）									
使用教材		Hi, friends! 1, Hi, friends! Plus, SWITCH ON! G1									
指導体制		HRTとNETによるティームティーチングを授業の原則とする。NETの学校訪問しない場合は、HRTだけ（または2HRTs）による授業とする。									
指導形態 1時間での割合		ペアやグループでの学習割合 60% 教室英語使用割合 ~60%									
評価の観点 評価の方法 年度末評価		評価の観点：学習到達目標にそった評価の観点を設定する 評価の方法：児童の活動の観察、作品、自己評価や相互評価、ALTとの対話 年度末評価：観点別評価と3段階評価による評定（AとBで評価） 言語や文化についての理解 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度 聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力									
学習到達目標 CAN-DO リスト		L：身近で簡単なことについて、話される初歩的な単語や表現を聞いて、話し手の意向などの要点を理解することができる。 1) 文字の発音を聞いて、識別することができる。 2) 身近な単語の発音を聞いて、識別することができる。 3) 慣れ親しんだ表現を聞いて、理解することができる。 S：身近で簡単なことについて、初歩的な単語や表現を用いて、自分の気持ちや考えなどを話すことができる。 1) 自分の考えや気持ち、事実などを、初歩的な単語や表現で伝えることができる。 2) 与えられたテーマについて、初歩的な単語や表現で表現できる。 3) 聞いたことについて、相づちをうったり、初歩的な単語や表現で気持ちを表したりできる。									
学習目標 Read 「読むこと」 Write 「書くこと」		R：アルファベットや慣れ親しんだ英語の簡単な単語を発音しようとする。 1) 文字や符号を識別し、読もうとする。 2) 単語を識別し、読もうとする。 3) 慣れ親しんだ表現を、読もうとする。 W：アルファベットや慣れ親しんだ英語の簡単な単語をなぞり書こうとする。 1) 文字や符号を識別し、なぞり書きしようとする。 2) 単語を識別し、なぞり書きしようとする。 3) 慣れ親しんだ表現を識別し、なぞり書きしようとする。									
活動のねらい		自分のことを伝え楽しむ					モジュール学習（グレード1）				
指導 計画	月	時数	単元名・表現 【使用教材】 【Sunshineとの関連】	単元目標（学習到達目標・学習目標）	レッスン	ラウンド	パート	モジュール	テーマ・機能	ストーリー	
	4	3	自己紹介をしよう Hi, I'm ~. Nice to meet you. 【Hi, friends! 1 L1】 【Sunshine 1 Let's Start】	L：英語での自己紹介を聞いて、その要点を理解できる。 S：慣れ親しんだ表現を用いて、英語で簡単な自己紹介ができる。 R：英語の自己紹介文を読んで、その要点を理解しようとする。 W：英語の自己紹介文で用いられた表現をなぞり書きしようとする。		1 & 2	1 & 2	1～14			
	5	3	ジェスチャーをつけてあいさつ しよう I'm happy. 【Hi, friends! 1 L2】	L：ジェスチャーを聞いて、その要点を理解できる。 S：ジェスチャーを用いて、英語で簡単なあいさつができる。 R：英語のあいさつ文を読んで、その要点を理解しようとする。 W：英語のあいさつ文で用いられた表現をなぞり書きしようとする。		3 & 4	1 & 2	15～28	あいさつ、感謝	1 Good Morning!	
	6	4	物の数を数えよう How many ~ ? 【Hi, friends! 1 L3 & Plus ジングル Every day things】 【Sunshine 1 PROGRAM 4 & WF1】	L：数を数えたり、数を尋ねたりするのを聞いて、数を認識できる。 S：数を数えたり、数を尋ねたりできる。 R：数や数を尋ねる表現を読もうとする。 W：スキットをなぞり書きしようとする。	1	5	1 & 2	29～35	あいさつする。 感謝の気持ちを伝える。	2 Happy Birthday!	
	7	3	好きなものを伝えよう I like ~. 【Hi, friends! 1 L4 & Plus ジングル Everyday Thing】 【Sunshine 1 PROGRAM 3】	L：好きなものを聴き取ることができる。 S：自分の好きなものを述べることができる。 R：自分の好きなものを紹介するスキットを読もうとする。 W：自分の好きなものを紹介するスキットをなぞり書きしようとする。		ラウンド クイズ		7, 14, 21, 28 35			

児童ができたか確認するためのパフォーマンス評価を行っています。

単なる時数確保ではなく、45分と15分の短時間学習を効果的につなげる単元づくりの工夫をしています。

中学校の言語材料との関連に配慮

小学校外国語教育を推進する岩手県の取組

◆小学校外国語中核教員研修会

教育事務所ごと県内6会場で2日間の開催

1 趣旨

各小学校等において外国語教育を推進する教員に対し、次期学習指導要領における**外国語教育の趣旨**、**外国語の授業の実際**、**校内研修の進め方**、**地域における小中連携の方法等**必要な知識を習得させ、各校において外国語教育が円滑に推進されることを目的とする。

2 内容

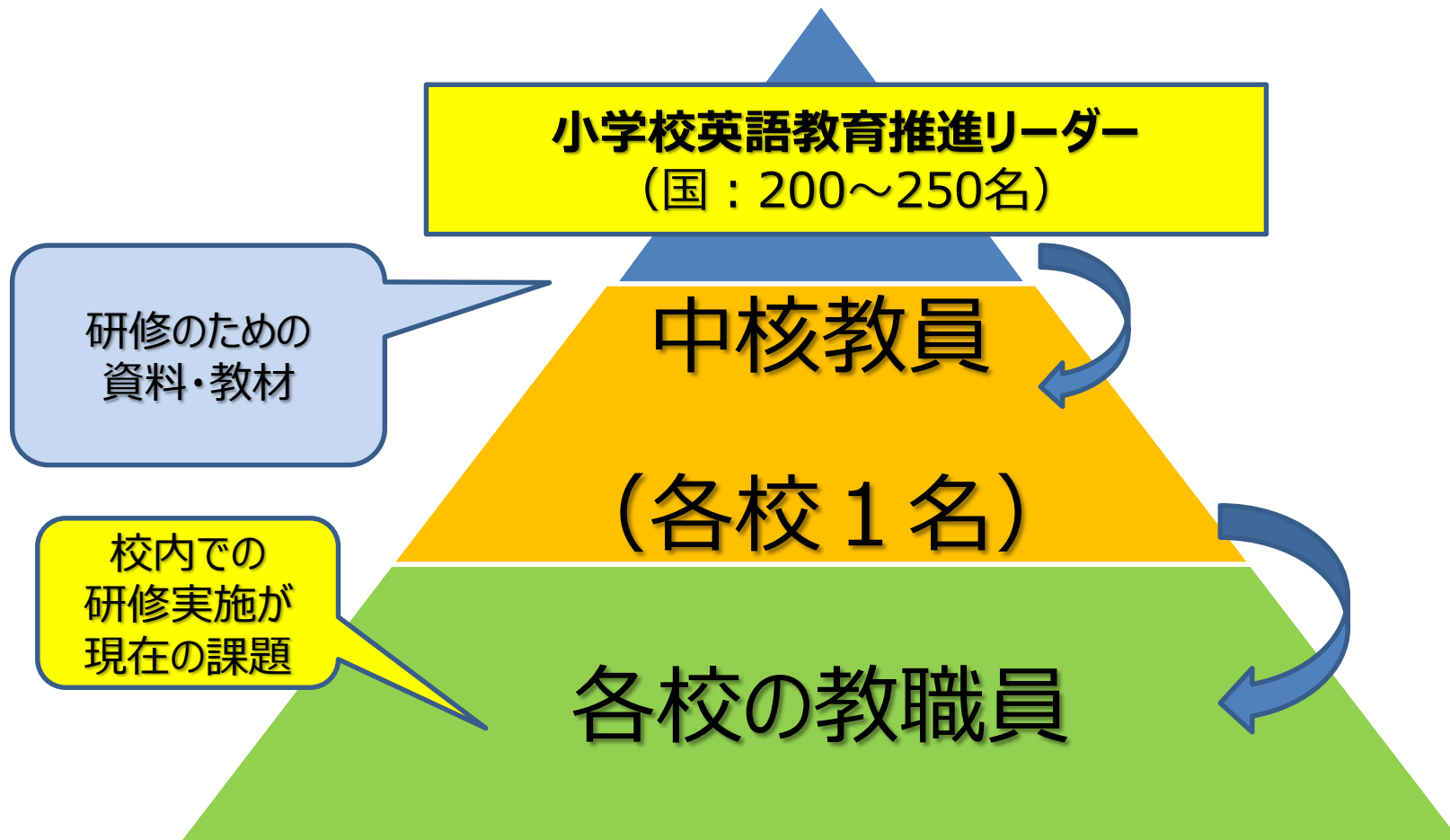
<第1日>

- ①講義Ⅰ 「小学校における外国語教育の現状と課題」
- ②講義Ⅱ 「外国語教育を円滑に進める指導力向上のための方策」
- ③演習Ⅰ・Ⅱ 「外国語教育の指導の実際」 ※カスケード研修
- ④マイクロ・ティーチングに向けてのグループ協議（Q&Aを含む）

<第2日>

- ⑤演習Ⅲ マイクロ・ティーチングに係る指導案検討・発表準備
- ⑥発表・協議・助言
- ⑦課題協議「自校における外国語教育の推進について」

カスケード研修・校内研修の実施



各学校の中核教員に期待すること

● 校内研修を企画・立案し、リードすること

- ・高学年だけでなく、すべての教員が主体的に関わる研修
- ・授業研修会だけでなく、マイクロ・ティーチングによる協働的な研修
- ・英語運用能力のブラッシュアップも

● 小中連携・小小連携の窓口となること

- ・中学校の先生、近隣（中学校区等）の小学校の先生との情報交換
- ・中学校の先生と一緒に授業計画を作成し、実施
（中学生を小学校に招いての共同授業など）
- ・小中連携会議における小中カリキュラムの接続に係る検討

● 外国語教育の情報収集、教職員・保護者への 周知

外国語教育に係る校内研修計画書について

【別紙様式】 小学校外国語中核教員研修事後提出課題

校 内 研 修 計 画 書

学校名	〇〇〇立〇〇〇小学校	校 長	〇〇 〇〇	作成日	平成〇年 〇月〇日
		中核教員	〇〇 〇〇		

1. 本校の外国語活動の現状・課題

- 外国語活動について、理解や指導力の状況にばらつきがある。
 - ・5・6年担任が中心となって進めており、外国語活動に対して他学
 - ・基本的な指導方法、教材・教具の活用の仕方があまり共有されてい
 - ・小学校外国語の教科化に向け、不安がある。
 - ・1～4年生は、ALTと交流する機会がない。
- 英語運用能力に自信がない。
 - ・クラスルームイングリッシュが上手くできない。
 - ・日本語が通じないALTとの打ち合わせが困難である。

岩手県独自の取組

2. 目標（平成28年度末の本校教員の姿・外国語活動の様子）

【授業指導力に関わって】

- ・外国語活動の目標や内容について理解を深める。
- ・ねらいに沿った活動が展開できる。
- ・効果的な指導や教材・教具の活用ができる。
- ・どの教員も、外国語活動の授業を受け持つことができる。

【英語運用能力に関わって】

- ・クラスルームイングリッシュの幅を広げる。

外国語教育に係る校内研修計画書について

3. 研修計画

【平成27年度】

学期	月	授業指導力向上研修	英語運用能力向上研修	主な年間計画等
2学期	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動の授業参観 ・先進実践校のDVDの視聴（自己研修） 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスルームイングリッシュのブラッシュアップ研修 	
冬休み	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・理論研修（目標・評価・指導方法等） ・教材・教具作成 		
3学期	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会（次年度の全体計画等作成） 		

2年分の研修計画を立てている

【平成28年度】

学期	月	授業指導力向上研修	英語運用能力向上研修	主な年間計画等
1学期	4月	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究会① ・指導主事訪問理論研修（目標、評価、指導力向上のための指導方法について） ・研修計画の確認 ・自校の課題の確認 ○校内研究会③ ・授業研究会①（中核教員による研究授業、事後研究会を行う。小中連携を図り、中学校の先生にも来ていただく。） 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究会② ・Classroom Englishの意義と活用方法（小学校外国語活動で使用される英語表現の説明と確認） 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式（4月） ・運動会（5月） ・宿泊学習（6月） ・修学旅行（6月）
	5月			
6月				
夏休み	7月	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究会⑤ ・文部科学省提供の授業映像資料の視聴 ・マイクロ・ティーチング（2チームに分かれて行う） 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究会④ ・Hi, friends! で使用するチャンツやゲーム 	
8月				

外国語教育に係る校内研修計画書について

4. 平成27年度の研修実施反省及び平成28年度研修計画の改善点（H27年度末に上記計画を修正・再提出）

- ・外国語活動に関わるアンケートをとり、職員の意識を確認することができた。
- ・小学校外国語教育の現状と課題、外国語活動の目標や評価について理論研修を行うことができてよかった。
- ・授業映像DVDを活用したり、6年担任に模擬授業をしてもらったりして授業のイメージを持つことができた。
- ・「小学校外国語活動 研修ガイドブック」CDを活用し職員で発音練習を行い、少しでも英語の発音について不安の解消につなげることができた。また、発音練習用にCDを一人ひとりに配付し日常的に活用するようにした。
- ・新年度計画の段階で、教務主任・研究主任との連携を図り、確実に実施できるよう計画を立案した。
- ・小中連携を図る研修（中学校の英語の教師から中学校の英語について）の機会をとる事ができなかったため、来年度は小中交流の年間計画に入れ、中学校と連絡を取りながら進めていく。

①理論研修（目標・評価・指導方法）

②マイクロ・ティーチング

③授業研究会

④英語運用能力向上研修

⑤小中連携を図る研修

※文部科学省発行の電子教材及び映像等を効果的に活用する

※すべての教員が校内研修に主体的に関わる体制づくりに配慮する

小学校外国語教育を推進する岩手県の取組

◆ 英語が好きになる学校づくり事業

本事業では、学校の主体的な取組、地域に応じた独自の取組を大切にしています

(例) 久慈市立大川目小学校版「英語が好きになる授業づくり3つの目標」

目標1 子どもの声が聞こえる授業

- 教師の声を控えめにし、児童の声がたくさん聞こえる授業にする。
- クラスルーム・イングリッシュの使用により、指示を簡潔にする。
- 児童同士の活動を大切にし、教師はやりとりを観察・支援する。

目標2 英語が使いたくなる授業

- 活動への動機づけとなる本時の課題（Today's めあて）を設定する。
- 一つ一つの活動のつながりを大切にした授業の組み立てをする。
- 視覚的に文字を使用し、児童が自力で活動するための板書を工夫する。

目標3 友だちと関わりたくなる授業

- 話し合いによる気づきの共有。語彙や表現への慣れ親しみを仲間と進める。
- 各セクションに配置されたActivityを活用し、児童同士の関わりを充実させる。
- 対話による情報収集を意図的に言語活動へ盛り込む。

大川目小では、「授業づくり3つの目標」を視点として外国語活動の授業参観を行い、研究会では、ワークショップ形式の協議を行っています。

小学校外国語教育を推進する岩手県の取組

成果（事業報告書より抜粋）

1 外国語活動の授業公開

- （1）外国語活動の授業を定期的に参観できるようにしたことで、高学年担任以外の教員も、外国語活動の授業づくりに関わることができた。
- （2）授業を公開する教員が、よりよい授業を提案しようと、教材研究に意欲的に取り組むことができた。

2 外国語活動の校内研修の充実

- （1）全教員が、外国語活動の指導に触れることができた。また、基本的な活動（ゲームやチャンツ等）を知ることで、外国語活動の授業経験の少ない職員に自信をもたせることができた。
- （2）短時間ではあるがクラスルーム・イングリッシュの研修会を設けることで、授業者の英語使用の意欲の高まりや授業の中での英語活用の場面を多くすることができた。

3 教材・教具の活用方法、ALTの活用方法の共有

- （1）年度初めに指導案や振り返りカードの共通理解を図ったことで、スムーズに授業の準備を進めることができた。
- （2）“Hi, friends!”のレッスンごとに資料を準備・整理したことで、授業準備の負担軽減及び教具の効率的な活用をすることができた。
- （3）各担任が作成した指導案を、データと紙媒体で一括集約したことで指導案作成の負担軽減になった。また、過去の授業者に授業の様子を聞くことで、さらにより指導へとつなげることができた。

4 小中連携

- （1）互見授業を重ねることで、小・中それぞれの指導方法や、目指す児童・生徒像の共通理解を図ることができた。
- （2）互いの校内研究会に参加することで、学区内小・中学校の教職員同士が学び合う風土ができた。

小学校外国語教育の推進に係る今後の課題

- **新学習指導要領の目標及び内容等の周知**
- **小学校外国語新教材の周知（指導方法を含む）**
- **移行期間における各学校の取組の充実**
- **新教育課程に向けたカリキュラム・マネジメント**
- **小学校教員の英語力向上に係る研修の充実**
- **ALT等の外国語指導に係る人材確保**

学習指導要領の改訂に伴う移行措置の概要

【移行期間における基本方針】

◆新学習指導要領への移行のための期間（小学校：平成30、31年度、中学校：平成30～32年度）において、円滑な移行ができるよう内容を一部加える等の特例を設ける。

◆指導内容の移行がないなど教科書等の対応を要しない場合などは、積極的に新学習指導要領による取り組みができるようにする。特に、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成することを目指す新学習指導要領の趣旨を十分に踏まえて指導されるようにする。

【移行措置の内容】

（2）小学校における外国語

→下記の表の授業時数のとおり外国語活動を実施することとし、**新学習指導要領の外国語活動（3、4学年）及び外国語科（5、6学年）の内容の一部を加えて必ず取り扱うものとする。**

【授業時数の特例】

◆平成30、31年度における外国語活動の授業時数及び総授業時数は、下表に定める時数を標準とし、**外国語活動の授業時数の授業の実施のために特に必要がある場合には、年間総授業時数及び総合的な学習の時間の授業時数から15単位時間を超えない範囲内の授業時数を減じることができることとする。**

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
外国語活動の授業時数			15	15	50	50
総授業時数	850	910	960	995	995	995

【留意事項】

◆目標や内容を2学年又は3学年まとめて示している教科については、全面実施の年度を見通した適切な指導計画を作成して指導すること。

◆移行期間中に実施する入学者選抜に係る学力検査における出題範囲は、特例の内容に留意し、学年ごとに児童生徒が履修している内容を踏まえたものになるよう十分配慮すること。

移行期間中に求められる指導内容（中学年）

学校教育法施行規則の一部を改正する省令（平成二九年文部科学省令第20号）附則第二項及び第三項の規定による平成30年度及び31年度の第三学年及び第四学年の外国語活動の指導の当たっては、新小学校学習指導要領第4章の規定の全部又は一部によるものとし、新小学校学習指導要領第4章第2の2〔第三学年及び第四学年〕〔知識及び技能〕(1)イ(ア)及び2〔第三学年及び第四学年〕(3)①に規定する事項は必ず指導するものとする。

次の内容を実際に指導することになる。

第4章 外国語活動

第2 各言語の目標及び内容等

2 内容〔第三学年及び第四学年〕〔知識及び技能〕

(1) 英語の特徴等に関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、次の事項を体験的に身に付けさせることができるよう指導する。

イ 日本と外国の言語や文化について理解すること

(ア) 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと



移行期間中に求められる指導内容（中学年）

新学習指導要領で第4章第2の2(3)①を見てみると・・・

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば次のような言語活動を通して指導する。



ア 聞くこと

(ア) 身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容を分かたりする活動。

(イ) 身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。

(ウ) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結び付ける活動。

イ 話すこと[やり取り]

(ア) 知り合いと簡単な挨拶を交わしたり、感謝や簡単な指示、依頼をして、それらに応じたりする活動。

(イ) 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の気持ちや考えなどを伝え合う活動。

(ウ) 自分や相手の好み及び欲しい物などについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動。

ウ 話すこと[発表]

(ア) 身の回りの物の数や形状などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。

(イ) 自分の好き嫌い、欲しい物などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。

(ウ) 時刻や曜日、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを話す活動。

移行期間中に求められる指導内容（高学年）

第5学年及び第6学年については、次のような特例が適用される。

改正省令附則第2項及び第3項の規定による平成30年度及び31年度の第五学年及び第六学年の外国語活動の指導に当たっては、現行小学校学習指導要領第4章に規定する事項に、新小学校学習指導要領第2章第10節第2の全部または一部を加えて指導するものとし、新小学校学習指導要領第10節第2の英語2〔第五学年及び第六学年〕のうち、〔知識及び技能〕(1)ア、イ(ア)、エ(ア)e及びf、エ(イ)並びに(3)①イ及びオに規定する事項は必ず指導するものとする。

次の内容を実際に指導することとなる。

第10節 外国語

第2 各言語の目標及び内容等

英語

2 内容〔第五学年及び第六学年〕

〔知識及び技能〕

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、次に示す言語材料のうち、1に示す五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。

移行期間中に求められる指導内容（高学年）

ア 音声

次に示す事項のうち基本的な語や句、文について取り扱うこと。

(ア) 現代の標準的な発音

(イ) 語と語の連結による音の変化

(ウ) 語や句、文における基本的な強勢

(エ) 文における基本的なイントネーション

(オ) 文における基本的な区切り

イ 文字及び符号

(ア) 活字体の大文字、小文字

アルファベット

エ 文及び文構造

次に示す事項について、日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに、基本的な表現として、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。

(ア) 文

e 代名詞のうち、I, you, he, sheなどの基本的なものを含むもの

f 動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの

(イ) 文構造 ※詳細は割愛

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば次のような言語活動を通して指導する。

移行期間中に求められる指導内容（高学年）

イ 読むこと

- (ア) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。
- (イ) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。
- (ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。
- (エ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。

オ 書くこと

- (ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。
- (イ) 相手に伝えるなどの目的を持って、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。
- (ウ) 相手に伝えるなどの目的を持って、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。
- (エ) 相手に伝えるなどの目的を持って、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。

高学年用新教材“**We Can!**”

本教材は先行実施と
移行措置のどちらにも
対応します

We Can!

1

指導編

平成32年度から教科書が使用
されるので、平成30～31年度
の2年間使用となります

暫定版（平成29年9月）

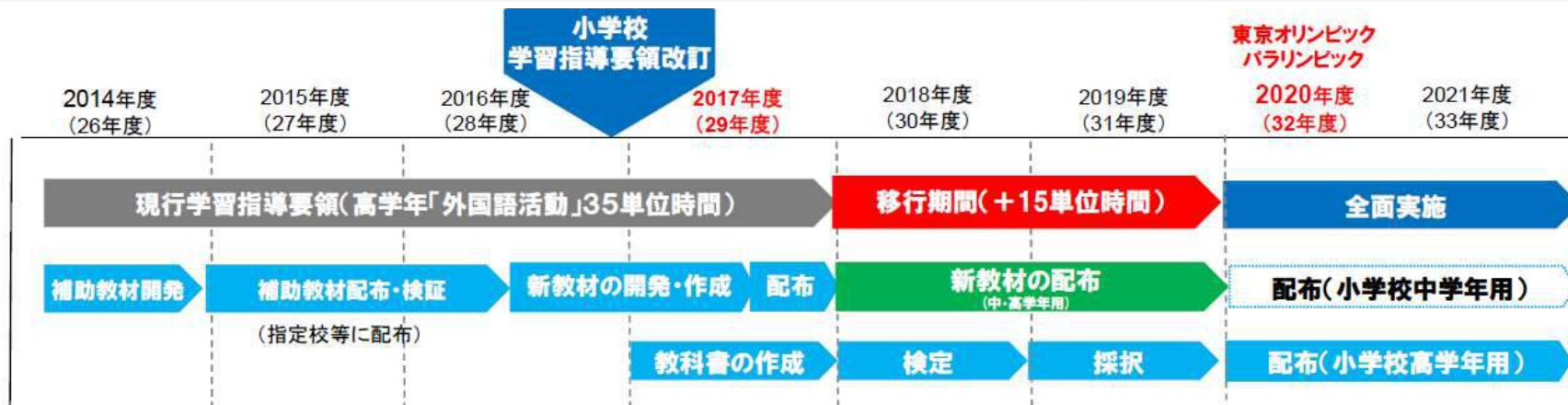
文部科学省

文部科学省

We Can!
1



新学習指導要領対応外国語教材“We Can!”（高学年用）作成の背景



- 新学習指導要領に円滑に移行するため、来年度からの2年間は、全ての小学校において、「外国語科」「外国語活動」の内容のうち、中学校との接続の観点から必要最低限の内容を指導。
- これに加えて、各学校の判断により、より多くの内容を指導することも可能。
- 教科書が無償給与されるまでの2年間、国が新学習指導要領に対応した教材を配布する必要。

【学習指導要領改訂のポイント】

中学年から、聞くこと、話すことを中心とした「外国語活動」(年間35単位時間)を導入し、外国語に慣れ親しみ、学習への動機付けを高めた上で、高学年から段階的に文字を読むこと、書くことを加え、系統性を持たせた指導を行うため教科「外国語」(年間70単位時間)を導入。

【移行措置のポイント】

◆小学校高学年

・新たに年間15単位時間を加え、50単位時間を確保し、外国語活動の内容に加えて、外国語科の内容を扱う。外国語科の内容については、中学校との接続の観点から必要最低限の内容と、それを活用して行う言語活動を中心に扱う。

◆小学校中学年

・新たに年間15単位時間を確保し、外国語活動を実施する。高学年との接続の観点から必要最低限の内容と、それを活用して行う言語活動を中心に扱う。

※年間総授業時数及び総合的な学習の時間の授業時数から15単位時間を超えない範囲内の授業時数を減じることができる。

文部科学省作成新学習指導要領対応外国語教材“We Can!”（高学年用）

“We Can!”（小学校高学年用）のポイント

- 各ユニットでは「聞くこと」「話すこと」からスタートし、**音声に十分慣れ親しんだ後に、「読むこと」「書くこと」の言語活動**に取り組むという構成
- 「聞くこと」「話すこと」を中心とした中学年における**外国語活動の学習内容を繰り返し活用しつつ、広がりのある話題を設定**
（例）行ってみたい国や地域（“We Can! 1” Unit 6）、オリンピック・パラリンピック（“We Can! 2” Unit 6）
- 「読むこと」「書くこと」に対応したコーナー（‘Let’s Read and watch’ ‘Story Time’）を設置
- 中学校への接続を重視し、より豊かなコミュニケーションとなるよう、**代名詞（三人称）、動名詞、過去形などを含む基本的な表現に繰り返し触れるよう工夫**

“We Can!”（小学校高学年用）の配布について

- 各自治体にデータで共有（9月中）した後に、**今年度中に各学校に冊子化した中学年用教材、We Can!（高学年用）を配布**
- 新教材に加え、言語活動の充実が図られるよう**「デジタル教材」や「ワークシート」を開発**（今年度中に配布）
- このほか、教師用指導書、学習指導案、年間指導計画例、活動例案、研修ガイドブックも作成し、**授業準備を支援**



小学校外国語教育に係る新教材の整備等 実施スケジュール 平成29年9月版

3～6年
共通

年間指導計画例案
(6月公表)

活動例案
(6月公表)



研修ガイドブック
(7月公表)

※公表はデータの共有により行う。

5・6年

今回公表



3・4年



9月21日(木) 新教材説明会 (於:五反田TOC)

模擬授業を取り入れながら、新教材の活用法等を周知。YouTubeで配信。

移行措置・先行実施対応

年度内 3～6年の児童用冊子・教師用指導書・デジタル教材を希望する全ての学校に配布

移行期の“Hi, Friends!”と新教材“ We Can!”のバランス

- ① 児童の実態に応じた教材使用(題材選定)をすること
- ② 新教材が小3から外国語活動を行っていることを想定して作成されていることから、移行期は“Hi, Friends!”をベースとした指導計画を作成することが望ましい
- ③ 例えば、移行措置50時間の外国語活動を下記により計画
“Hi, Friends!”35時間分 + “We Can!”等15時間分
- ④ 評価は外国語活動で行うが、追加時数で、「慣れ親しみ」を「定着」に高める指導について検討していくこと
“Hi, Friends!”の1単元は4時間程度⇒“We Can!”は8時間程度
- ⑤ 「読むこと」と「書くこと」の指導に取り組んでみる

先行実施・移行措置に係る各学年の年次進行

	H28	H29	H30	H31	H32	H33
G	5年活35H	6年活35H	中1	中2	中3	高1
A	4年	5年活35H	6年	中1	中2	中3
B	3年	4年	5年	6年	中1	中2
C	2年	3年	4年	5年	6年科70H	中1
D	1年	2年	3年	4年	5年科70H	6年科70H
E		1年	2年	3年	4年活35H	5年科70H
F			1年	2年	3年活35H	4年活35H
			先行実施・移行措置		小学校 完全実施	中学校 完全実施

外国語活動の成果を活かすということ

コミュニケーション能力の素地を大切に

- ・音声に対する反応がよい
- ・外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度がある
- ・音声面で、語彙や表現が豊富
- ・分からなくてもコミュニケーションをあきらめない

英語でコミュニケーション活動した経験を積んでいる

外国語活動の体験を知識・技能として再構築する

- ・言語活動を通して、「使わせながら」、文字や文構造を学ばせる
(気付きを促す指導)
- ・聞くこと、話すことの音声での活動を先行し、読むこと、書くことにつなげる
(音声から文字への橋渡し)
- ・チャンツやゲームの活用 (慣れ親しみから定着へ)
- ・場面や機能の系統性を意識し、語彙や表現を何度も使わせて定着を図る
(コミュニケーションの豊かさ、楽しさを味わう)
- ・自分のことを自分の言葉で言えるようにする

「慣れ親しみ」を「定着」に変えていく具体策

<1時間の授業の中で>

- 授業のゴールを具体的に児童に示す
- 定着のための活動量を確保する
- 児童に考えさせる課題を与える
- できるようになったか授業中にチェックする

<単元を貫いた計画的な指導>

- スパイラルな指導を行う
- 同じ表現を別の場面で使用させる
- 単元を通してできるようになったかパフォーマンステストでチェックする

小学校・中学校・高校が外国語教育でつながります

- ① 中学校英語科教員に情報を共有してください。
- ② 小学校外国語教育を小学校だけのことと捉えず
中学校・高等学校教育とともに考えてください。
- ③ 小学校外国語科は、中学校英語の前倒しではなく、新しい教科です。外国語活動の成果と課題を踏まえて設定されています。小学校でしかできないことがあるから、小学校に外国語教育が導入されました。小学校文化に根差した外国語教育を創っていきましょう。

「チーム岩手」の願い

指導者が夢を持ちましょう

「外国語でできる」喜びを知り

生涯にわたって外国語を主体的に学ぶ

「英語が好き」な児童を皆で育てましょう



References

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語編』（平成29年6月）
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』（平成29年6月）
- 文部科学省『学校教育法施行規則の一部を改正する省令の制定並びに幼稚園教育要領の全部を改正する告示，小学校学習指導要領の全部を改正する告示及び中学校学習指導要領の全部を改正する告示等の公示について（通知）』（平成29年3月31日付28文科初第1828号）
- 文部科学省『新学習指導要領に対応した小学校新教材説明会』配布資料等（平成29年9月21日）
- 岩手県教育委員会『平成29年度学校教育指導指針』（幼稚園等・小学校・中学校・義務教育学校）
<http://www.pref.iwate.jp/kyouiku/gakkou/shouchuu/003301.html>
- 岩手県教育委員会『平成28年度英語が好きになる学校づくり取組報告書』（久慈市立大川目小学校）』
<http://www.pref.iwate.jp/kyouiku/gakkou/shouchuu/052914.html>